

## ☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

## 【山口県子ども読書支援センター行事】

## ★「幼児のためのおはなし会」

○日時：9月4日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：10組程度  
《8月のおはなし会で使った本》

『あつひのおともだち』 かとうようこ/脚本 童心社 2019.8

『くだものだもの』 石津ちひろ/文 福音館書店 2006.6

『くだものいろいろかくれんぼ』 いしかわこうじ/作・絵 ポプラ社 2016.3

『ありとすいか』 たむらしげる/作・絵 ポプラ社 2004.4

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

## 【新刊紹介】価格は消費税抜き

## ＜絵本-3, 4歳から＞

『わたしはかわいいマヌルネコ』 たけがみたえ/作 あかね書房 2023.6 ¥1400

あら、こんにちは、わたしのことしりたい？せかいでいちばんふるくからいるねこ、マヌルネコです。じつはね、うんどうはこがてなの。だからね、わたしはいろんなじゅつをもっている。みてて。モンゴルの大草原を舞台に、活動時間や狩りの仕方、天敵から身を隠す方法といった野生の生態が、マヌルネコ自身の一人称でユーモラスに語られる。生き生きとした木版画が目を引く絵本。

『おてがみさがし』 おくはらゆめ/作 あかね書房 2023.7 ¥1200

しましまのねこ、なっちゃんのうちに、しろいねこのふうちゃんからとどいたおてがみには、なっちゃんのじょうろのえと「さがして」のめじ。かいてあるものをみつけると、そばにはつぎにさがすものがかめれたおてがみが。つぎつぎにみつかるとおてがみをたどって、こうえんにやってきたなっちゃん。しーそー、おはな…さいごの「さがして」は？作者自身の思い出が活かされた絵本。

## ＜絵本-5, 6歳から＞

『きょうりゅうゆうえんち』 やましたこうへい/作・絵 ポプラ社 2023.7 ¥1700

きょうりゅうがだいすきなゆうくん。こうえんではみんなに「なにかまにいて」といわずにひとりぼっち。あるひ、きょうりゅうゆうえんちへのしょうたいじょうがとどいた。きょうりゅうだらけのアトラクションをまわるうちに、あそびこきていたきょうりゅうのこどもたちとなかよくなって…。多種多様な恐竜や古生物が丁寧に描き分けられ、ページのすみずみまで楽しめる絵本。

## ＜絵本-小学校低学年から＞

『ちょっとだけのおんぴりするひ』 ウェンディ・メドウール/ぶん ダニエル・イグナス/え やまもとみき/やく 化学同人 2023.7 ¥2000

ママにもバスのうんでんしゅさんにもせんせいにもともだちにも、あさからずっと「いそいで！」といわれてばかりのティンヤ。がっこうがおわり、むかえにきたママと「ちょっとだけ、おんぴり」おさんぽしてかえることに。日々の予定に急かされるなかで、感じたことや興味を持ったものにゆっくりと心を傾けるかけがえのない時間を、色鮮やかな絵とシンプルな言葉でつむいだ絵本。

## ＜絵本-小学校中学年から＞

『アアウをとってこい』 秋野癸巨矢/文 秋野不矩/絵 BL出版 2023.6 ¥1700

南太平洋に浮かぶサンゴ礁の島々のひとつ、エブ島の長老イリリクは、ベチュワクという子を後継ぎにしようと思っていた。要領のいい弟ジェカールはいつも先を越されるのんびり屋のベチュワクのために、イリリクは人にすばらしい力を与えるふしぎなもの「アアウ」をとってくるようひとりの巨人に命じる。海洋民族の自然観が色濃い昔話絵本。1976年発行の作品に加筆して復刊。

## ＜読み物-小学校低学年から＞

『ごめんねでてこい』 ささきみお/作・絵 文研出版 2023.6 ¥1200

少しの間はなちゃんのうちで一緒に暮らすことになったおばあちゃん。いつもここにこしておしゃべりなおばあちゃんのはなちゃんは大好き。でも、ささいなことからおばあちゃんに「きらい」と言ってしまう。そのうちおばあちゃんは家に帰り、さらに体調を崩して入院してしまう。「ごめんね」と言いたいのに言い出せない葛藤を翻弄されながらも伝えようとする少女に心温まる物語。

『ぼくのじしんえにつき』 八起正道/作 いたうひろし/絵 岩崎書店 2023.6 ¥1200

パパ、ママ、おばあちゃん、ねこの大五郎とくらすぼくは、毎日絵日記をかいている。7月25日、大地震がおきてまちがメチャクチャになった……。大地震が人々の生活にもたらす現象について、子どもであるぼくの視点から描かれる。防災について、命について、人とのつながりについて考えるきっかけとなる1冊。1989年発行の新装版。第6回福島正実記念SF童話賞大賞受賞。

## ＜読み物-小学校中学年から＞

『水平線のかなたに』 ロイス・ローリー/著 田中奈津子/訳 ケナード・パーク/画 講談社 2023.6 ¥1400

1941年12月7日（日本時間12月8日）日本の戦闘機がハワイの真珠湾を攻撃。1945年8月6日米軍機が広島に原子爆弾を投下。戦時をそれぞれの場所で過ごした人々の人生が淡々と綴られる。8歳で田布施から東京に移り、アメリカで絵本画家となったアレックス・セイと、ハワイで生まれ少女時代を日本で過ごした作者との出会いなど、自身の経験をおりまぜながら戦争を伝える。

『列車にのった阿修羅さん』 いどきえり/著 マスダケイコ/絵 くもん出版 2023.6 ¥1400

1945年、国民学校（現在の小学校）5年生、総一郎の家の土蔵に、奈良の興福寺から戦いの神さまである阿修羅像などの国宝の仏像が疎開してきた。兵隊になることに憧れていた総一郎は、戦争が終わったためにその夢がかなわなくなったことに憤る。友人の

父の死や変わる生活環境で戸惑いながらも終戦を受け入れ、成長する少年を描いた事実をもとにしたフィクション。

### <読み物—小学校高学年から>

『ぼくはうそをついた』 西村すぐり/作 中島花野/絵 ポプラ社 2023.6 ¥1500

舞台は被爆後60年が経った2005年の広島。小学校6年生のリョウタはひいおじいちゃんが亡くなったことで一緒に暮らすようになったシングルじいちゃんから、原爆で亡くなった大おじいさんの話を聞く。一方、原爆で息子を亡くした曾祖母に寄り添いたいレイは、男の子に見えるくらい髪を短くし…。作者の母の戦争体験を書き残したいという思いから綴られた、平和を願う物語。

『図書館がくれた宝物』 ケイト・アルバス/作 榎田理絵/訳 徳間書店 2023.7 ¥1900

1940年、第二次世界大戦中のロンドン。両親が亡くなってから引き取ってくれたおばあさんの葬儀の後、12歳のウィリアム、11歳のエドモンド、9歳のアンナのきょうたいは、親代わりとなってくれる人を探すために疎開する。冷遇される疎開先で大好きな3人が心を穏やかにできたのは図書館とその司書ミュラーさんとの交流だった。戦時中に結ばれる新たな家族の絆の物語。

### <読み物—中学生から>

『川滝少年のスケッチブック』 小手鞠るい/作 川瀧喜正/絵 講談社 2023.6 ¥1400

ぼく深青(みお)は、幼いころ父を亡くし、アメリカで母と暮らしている中学生。祖父がスケッチブックに描いた少年時代の絵日記を読むのが大好き。夏休みに祖父が住む岡山へ行くことになり、絵日記の続きをもらうことに。2冊目のスケッチブックに描かれていたのは、祖父が13歳の時の絵日記で…。終戦の年の岡山空襲など、作者の父の実体験をもとに描かれた「戦争」の物語。

『ローラ・ディーンにふりまわされてる』 マリコ・タマキ/作 三辺律子/訳 ローズマリー・ヴァレロ・オコーネル/画 岩波書店 2023.5 ¥2500

フレディは17歳の女の子。同性の恋人ローラに振り回され、何度ふられてもよりを戻していることを、親友のドゥードルたちはあきれながらも心配している。そんな中、ドゥードルに相談を持ち掛けられたフレディだが、ローラを優先してしまう。翌日からドゥードルは学校にも来なくなり…。幸せになれる恋愛とは?アメリカで数多くの児童文学の賞を受賞したグラフィック・ノベル。

### <ノンフィクション—小学校低学年から>

『すもうのずかん オゼキイサム/絵 藤井康生/監修 Gakken 2023.6 ¥1300

日本伝統のスポーツ「すもう」。すもうのルールやマナーをはじめ、力士の身体や食事、使う道具や一日の過ごし方について、分かりやすい言葉とイラストで紹介する。大相撲を支える人々、行司や床山などの役割についても解説する。たちあいやとりくちの技や、まわしの締め方やしこの踏み方等が分かりやすく掲載され、動作の真似をするなど親子で楽しみながら学べる図鑑絵本。

『ぐんぐん考える力を育むよみきかせ むしのお話20』 山下美樹/作 国立科学博物館/監修 西東社 2023.7 ¥1500

一番強い虫は?一番きれいな虫は?虫って何を食べるの?どこに住んでいるの?虫について知りたいことが、物語と図解で学べる本。テーマごと、短い物語で虫の世界を楽しみ、その後には分かりやすいイラストや言葉で解説、親子で取り組める虫をもっと知るための体験の紹介も掲載。1877年に創立された自然史・科学技術史に関する唯一の国立総合科学博物館が監修。

### <ノンフィクション—小学校中学年から>

『赤いボタン』 岡本央/写真・文 大月書店 2023.6 ¥1600

1996年長崎、公園を作り直す工事を始めると土の中から骨や歯、赤いボタン等が出てきた。自身も3歳の時に被爆した竹下芙美さんは、原爆で亡くなった人たちの遺骨や遺品を収集する。やがてそれらは母校の長崎市立銭座小学校へ寄贈され、子どもたちに戦争や原爆のおそろしさを伝えている。芙美さんの思いや活動を伝える写真絵本。姉妹編の『火のトンネル』も同時刊行。

『たのしいことば!!オノマトペ大図鑑』 青山由紀/監修 国土社 2023.5 ¥4000

オノマトペとは、人の気持ち、人のものの状態、生き物の鳴き声やものの音などを表す言葉。使うことで表現がより豊かになる。オノマトペの歴史や海外のオノマトペについて解説。人、自然やものをテーマにいろいろなオノマトペをクイズ形式で楽しいイラストとともに紹介する。意味や使い方、似ているオノマトペ、反対の意味のオノマトペも掲載。巻末にはオノマトペの索引あり。

### <ノンフィクション—小学校高学年から>

『ラーゲリ犬クロの奇跡』 祓川学/作 田地川じゅん/絵 ハート出版 2023.7 ¥1500

昭和二十年八月、日本は連合国に敗戦。終戦時、海外には多くの日本人が残されていたが、中でも旧満州やソ連(現ロシア)のシベリア外地では、日本の軍人・軍属の約六十万人が酷寒のラーゲリ(強制収容所)で重労働を強いられる。過酷な抑留生活の中で、人々に希望と安らぎを与え、引き上げ時共に日本に来た犬クロの物語。ページ下部には、戦争関連用語の脚注あり。

### <ノンフィクション—中学生から>

『知りたい気持ちに火をつけろ! 探究学習は学校図書館におまかせ』 木下通子/著 岩波書店 2023.6 ¥940

埼玉県の高校で現役の学校司書をしながら、「みちねこ」として本と人をつなげる活動をしている著者が、勤務先の学校の図書館サービスを中心に「学校図書館」について紹介。また探究学習との連携、「点検読書」などのやり方、コロナ禍で進んだ学校図書館のDX化について説明。生涯学習の基盤となる学校図書館の活用も提案。ワークシートがダウンロードできるQRコード付き。

### <研究書>

『赤ちゃんからあそべるお手玉あそび』 藤田浩子/編著 一声社 2023.7 ¥1200

日本の伝承あそびの一つである「お手玉あそび」をイラストを交えて紹介。わらべうたに合わせたお手玉あそびや伝承のお手玉歌はもちろん、赤ちゃん向けの大きなお手玉を使ったあそびや、いろいろな形のお手玉を使ったおはなしあそびも紹介。巻末にはお手玉の型紙と作り方を掲載。家庭や保育の現場だけでなく、高齢者との世代を超えた交流にも活用できる一冊。

『戦争と平和 子どもと読みたい絵本ガイド』 草谷桂子/著 子どもの未来社 2023.6 ¥1500

静岡で家庭文庫を主宰する著者が、「戦争と平和」についてさまざまな思いを重ねられる絵本を集めたガイドブック。巻頭から巻末に向かって、筆者が想定する読者の対象が幼児から大人になるように構成し、さらにテーマごとにまとめて絵本を紹介。2022年に出版された絵本まで取り上げ、刊行時点で品切れの本については表記あり。巻末に掲載本の索引あり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

